

祝・五十周年 第七代校長に就任して



福岡大学附属大濠中・高等学校校長
家宇治 輝太郎

福岡大学附属大濠中・高等学校校長に平成十五年四月一日に就任いたしました。大濠高等学校同窓会の会員の皆様へ一言ご挨拶申し上げます。又、本年は大濠高校同窓会創立五十周年の記念すべき年です。心よりお祝い申し上げます。昭和23年に福岡外事専門学校(現福岡大学)の附属として、大濠中学校が認可され、その3年後には、初代校長井口末吉先生のもと、質実剛健「文武両道」「道徳教育」が学校方針として、大濠高等学校が産声をあげました。敗戦後まもない混乱した社会情勢の中、創設の意に燃えた我々の先輩は、文字通り血と汗を流して、学園の基礎づくりに邁進されました。

卒業生の皆様のご苦労も並大抵ではなかったと推察致します。爾来、国内外の大きな変動の中で、本校は福岡で、有名男子進学校としての地位を確かなものとし、運動クラブも全国的に活躍し、今日に至っております。同窓会創立五十周年の節目に当たって、大濠高校も更に発展飛躍しなければなりません。昨年、中高一貫の一期生が大濠高校を卒業しましたが、東大、京大、九大、東北大、早稲田慶応と多方面の大学にそれぞれ進学しました。

附属大濠中学校の世間の評価は高く、将来が楽しみになっております。しかし、公立の中高一貫校が平成16年度より福岡県でも開校され、西南中・高校も新校舎に移転する等、公立私立の教育改革も急ピッチで進んでいます。少子化が進む厳しい状況の中、福岡県の教育界でも公立私立問わず、激しい競争、淘汰の時代に入っています。子供達の「生きる力」を「考える力」は、基本知識なくして身に付くものではありません。本校は、過去の栄光に甘えることなく必要な改革を進めていく所存です。私も教職員が今一度建学の精神を踏まえて、研鑽を重ね、本学園を更に向上させることが同窓会の会員の皆様への感謝の表しかたではないかと考えます。国際的にも活躍できる人材を引き続き育成できるよう努力致します。最後に、同窓会の皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、私の就任の挨拶と致します。

福岡の連覇に貢献

駅伝部 石橋洋三(新3年)



都道府県別対抗駅伝での活躍
駅伝部の石橋洋三君(新3年)が1月19日、広島で行なわれた全国都道府県駅伝競走大会に第五区で出場、十秒差の二位からトップをとらえ四十秒の差をつけ、福岡県の連覇に大きく貢献した。その快走は新聞などでも大きく報道され、大濠の駅伝部を全国に知らしめた。同じチームの六区の中学生の大濠高校入学も決まっております。

おり、今年度の駅伝部は大変楽しみであります。また後日、メンバーは西日本スポーツ賞を受賞しました。

テニス部 選抜大会出場

テニス部 渡辺・吉木両顧問と9名のメンバー



昨夏インターハイ出場
バスケット
バレー
剣道・全国三位
柔道(個人)

今春選抜出場
バスケット
(ウインターカップ)
硬式テニス

硬式テニス部が選抜大会に三年ぶり三回目の出場を果たした。福岡県からは柳川・九州大附属ととも三チームで出場。大会は三月の二十一日から北九州プリンスホテルで団体戦が争われる。団体戦は九名の選手登録で、ダブルス二試合、シングルス三試合の五ポイントでのトーナメントである。この「大濠人」が出る頃には既に大会は終了しているが、最強のチーム柳川が引く張る県勢の一画としてなんと上位進出を期待したいものだ。

昨夏県大会ベスト8・秋季市長杯優勝

硬式野球部が古豪復活へ向けて確かな成績をあげている。昨春市長杯の決勝を東福岡と争った本校硬式野球部は、その試合延長の末惜しくも敗れたものの、夏の大会のシード権を勝ち取った。それでも、ここ数年の実績から他のシード校への注目度が高く、本校のパートナーは最激戦パートナーといわれたが、他の有力シード校が次々と姿を消すなか、本校はパートナーを勝ち進み、県大会へ駒をすすめた。県大会で一勝をあげる頃には古豪復活、久し振りの甲子園の音が聞こえ始めたが、ベスト8であと一歩及ばなかった。しかし、久し振りの県大会で、北九州市民球場を大濠の応援団が席巻した。

古豪復活へ確かな手応え 硬式野球部



力強い4番前畑のバットイング

夏休み後半から始まる秋季市長杯においては、九州・福岡第一・東海第五と強豪校を次々と破り、決勝でも福工大城東を五対三と退け、一九九七年春以来十一季五年)振り十五回目(博多工業に続いて二番目の優勝回数)の優勝を遂げた。秋の九州大会予選では五回戦(準々決勝)まで勝ち進んだが、沖学園に思わぬ苦杯をなめることになる。準決勝で柳川と計算ができる大会だっただけに、その敗戦は悔やまれた。年が明け、三月練習試合解禁より、既に多くの試合を積んでいるが、連戦連勝を続けている。三月二十四日が九州大会予選の一回戦になるが、この「大濠人」が出る頃には九州大会出場を決めていることが大いに期待できる。その後の市長杯の連覇もかつており、いよいよ夏に向けて目が離せない。この夏県下で最も注目されるチームであることは間違いなく、その期待に応えるべく選手一人ひとりの精神面も成長している。周囲の期待にこぼされることなく、またおごりたかぶることなく、集中して一試合一試合に臨んで欲しいものだ。

夏休み後半から始まる秋季市長杯においては、九州・福岡第一・東海第五と強豪校を次々と破り、決勝でも福工大城東を五対三と退け、一九九七年春以来十一季五年)振り十五回目(博多工業に続いて二番目の優勝回数)の優勝を遂げた。秋の九州大会予選では五回戦(準々決勝)まで勝ち進んだが、沖学園に思わぬ苦杯をなめることになる。準決勝で柳川と計算ができる大会だっただけに、その敗戦は悔やまれた。年が明け、三月練習試合解禁より、既に多くの試合を積んでいるが、連戦連勝を続けている。三月二十四日が九州大会予選の一回戦になるが、この「大濠人」が出る頃には九州大会出場を決めていることが大いに期待できる。その後の市長杯の連覇もかつており、いよいよ夏に向けて目が離せない。この夏県下で最も注目されるチームであることは間違いなく、その期待に応えるべく選手一人ひとりの精神面も成長している。周囲の期待にこぼされることなく、またおごりたかぶることなく、集中して一試合一試合に臨んで欲しいものだ。

同窓会創立五十周年の記念の年にあたり、安藤会長をはじめ同窓会一丸となつてのバックアップ体勢も整いつつある。再び甲子園球場で校歌を斉唱する日を夢見て、応援したい。



勝利の校歌